



協会事業や各種大会が中止となっているので、今号は特別編成(6P)で発行します

広報委員長 岩田崇

コロナ禍で頑張る選手たち！

コロナ感染防止対策により、公式試合だけでなく選手全員が集まった練習もままならない中、なお頑張っている選手の姿をお届けします。



J SPORTS カップ

9月13日、露橋SCにおける選手強化委員会主催の練習会で、コロナ禍の選手のモチベーション維持を狙い、県下トップ選手が所属する男子4チーム(ジェイテクト、東海興業、豊田通商、大同特殊鋼)、女子2チーム(豊田通商、東海興業)が団体戦形式で対戦する、というメニューが企画された。これが新たな試みとしてJ SPORTS(CS/BS放送事業者)との共同企画となり、「J SPORTSカップ」と冠が付いた。そのうちの一つ、ジェイテクトVS東海興業(共にS/Jリーグ1部)の対抗交流戦がLIVE配信された。



J SPORTS カップ

13時からの配信準備が進むコート横では、参加チーム同士の試合が次々と始まる。練習試合とはいえ、久しぶりの団体戦形式。選手はもちろん、チーム関係者からもワクワク感が溢れ出る。楽しそうだ。

しかしながら、団体戦の雰囲気は様変わり。ベンチは間隔を空けて交互に座り、声援の代わりに拍手と鳴り物。コートからは高速でシャトルを打ち合う音とキュッキュッという靴の音。長いラリーを制した後など、無意識に出る小さな「よっしい…」の声だけ。

自粛期間中は「できること、やるべきことが増えた」と前向きに捉えた選手も、「やはり、モチベーションは下がった」選手も、誰もが口を揃えて言う。「(こうやって、どんどん)試合がやりたい！」…同感だ。



LIVE配信中

当日は、コロナ対策をはじめ、県協会の全面的な協力体制があった。ウィズコロナでの大会開催モデルだろうか。試合がやりたい選手をバックアップし、憂いなく大会運営できる喜び?を味わう日が待ち遠しい。

広報委員 山本真弓



ジュニアトップ選手とS/Jリーグ選手との交流試合

本年度の選手強化事業の一環として、令和2年7月12日(日)名東スポーツセンターにて、愛知県内の小・中・高のトップ選手及びS/Jリーグ選手を集めた交流練習会を開催しました。

ありとあらゆる大会が中止又は延期となっている現況下、全ての選手のモチベーションアップに少しでも繋がれば、の思いから企画しました。当日は、愛知県バドミントン協会の山田理事長・伊藤副理事長も激励に駆けつけて下さいました。交流会最後にはS/Jリーグ選手による模範試合も実施され、迫力あるプレーを目前で観戦することも出来ました。

大会の開催が難しい中、今後も強化事業についてはコロナと共存しながら活動してゆく予定です。

選手強化委員長 馬場直樹



コロナ禍における活動 — 東海興業 —

新型コロナウイルスの影響により各大会が中止となり、この先も見通せない現状ですが、先ずは室内での練習が再開されたことにより選手のモチベーションは上がってきています。

8月の長期連休の練習最終日には、気分転換もかねてチーム内で紅白戦を行うなど、普段と違う練習も取り入れながら強化を進めています。

練習ができることへの感謝の気持ちを持ちながら、当面は愛知県独自で計画されている交流試合に高いパフォーマンスが発揮できるようチーム全体でレベルアップしていきます。引き続き、ご声援の程よろしく申し上げます。

東海興業 監督 小林瑛二郎



東海興業 練習風景

理事長通信

愛知県バドミントン協会
理事長 山田 順一郎



皆様におかれましてはご健勝にお過ごしのことと思います。本号が刊行されるのは初秋の候であると思われますが、理事長通信を執筆している現在は新型コロナウイルス第2波の真只中で常に感染防止に最大限の注意を払って生活をしている今日この頃です。

政府も緊急事態宣言解除後には新型コロナウイルスに対する「新しい生活様式」の実践例を発表し、感染拡大防止策を図りつつウィズコロナで通常の日常生活と経済活動を再開させ始めました。

本会においても、日本バドミントン協会が発表した感染拡大防止対策ガイドラインに沿い、最大限の防止策を施した上で各方面において徐々に事業を再開し始めており、7月には第1回常務理事会、8月には第2回理事会、9月には第2回常務理事会が開催され、四半期間滞っていた協会運営活動が再開いたしました。また、正副理事長会や専門委員長会議など少人数の会議ではオンラインでの会議も採用されております。選手強化面では、7月にジュニア対象のオール愛知強化練習会、9月に県下のS/Jリーグ参加チームを一堂に集めた強化練習会を開催、また指導、普及面においてもコーチ養成講習会、審判員資格検定会などが実施され、さらに高体連、小学生連盟などの加盟連盟においても大会や交流試合が開催されております。

みなさまにおかれましてもお身体ご自愛され、感染拡大防止対策を十分に施し、ウィズコロナでバドミントン活動をエンジョイしていただきますようお願いいたします。

大府

JR 大府駅西口徒歩 8 分

バドミントンプロショップ
リーダーズ グループ

SINCE 1979

名古屋一社

地下鉄一社南出口より徒歩 2 分

はりーあっぷ

代表 中口直人

TEL(0562)44-5529 FAX(0562)44-5594

(有)リーダーズ

代表取締役 菱田修光

TEL・FAX(052)703-2767

次のステージへ踏み出す君たちに！

感染拡大防止対策を徹底し、創意工夫と手間を惜しまず、大会開催に奔走しました。

第38回愛知県小学生バドミントン大会

令和2年7月24日(祝・金)常滑体育館にて、第38回愛知県小学生バドミントン大会シングルスが、また8月22日(土)には春日井市総合体育館にて、第38回愛知県小学生バドミントン大会ダブルスを行いました。コロナウィルス感染症が広がる中、大変迷いましたが、連盟独自の「新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのチェックリスト」の周知徹底など、話し合いに話し合いを重ね大会開催を決定しました。

試合は熱中症にも気を付けながら、学年ごとに試合のタイムテーブルを区切り、4年生以下男女の準々決勝が終わってから5年生男女の試合が始まる…というように学年が出来るだけ被らないように配慮しました。声を掛ける応援は一切なし、少ない観覧者の拍手のみの応援だったため、いつも以上にラケットを振る音、シャトルの当たる音、ステップを踏むたびにキュッキュッと鳴るシューズの音などが体育館に響き渡り、緊張感のある試合になりました。シングルスではどの学年も初戦からいつも以上にラリーが続く試合が多く、普段の練習をととても頑張っている様子がうかがわれました。昨年の入賞選手と顔ぶれも変わり、初めて代表入りする選手も多くいました。ダブルスでは昨年までと違う選手と組んで出場するペアが多かったのも、今年の特徴のひとつです。また、男女とも上の学年の選手とペアを組んで出場しながらも、そこでも引けを取らないラリー展開をするなど、この先とても楽しみな選手が多い大会でした。4位までに入賞した選手は令和2年10月11日(日)三重県伊勢市で開催される、第32回東海小学生バドミントン大会(個人戦)に出場します。令和3年1月岐阜県で行われる全国小学生大会の代表の切符をつかみ取るよう頑張ってください。

※全国大会は中止になりました

小学生連盟 鈴木由紀江

第38回愛知県小学生バドミントン大会 単の部

種目	優勝	準優勝	3位	4位
6年男子単	角倉陽太 (西尾ジュニア)	日比貴博 (大里東ジュニア)	鈴木翔 (西尾ジュニア)	三田村壮真 (岡崎ジュニアB.C)
5年男子単	山本翔太 (たんぽぽB.C)	山本権利 (アドバンスジュニア)	深田朔玖 (ウィスタリアジュニア)	仁枝琥多郎 (西尾ジュニア)
4年以下男子単	彦田煌 (西尾ジュニア)	清水碧 (岡崎ジュニアB.C)	伊藤源征 (大里東ジュニア)	伊藤優斗 (石ヶ瀬スポーツ少年団)
6年女子単	松本紗季 (はりーあつぷジュニア)	藤井詩 (はりーあつぷジュニア)	蟹江咲月 (石ヶ瀬スポーツ少年団)	田村優衣 (たんぽぽB.C)
5年女子単	古舘美空 (横須賀Jr.)	井上梨海 (大里東ジュニア)	田中依舞 (T-Jump Jr.)	吉永梨乃 (めだか豊橋バドミントンスポーツ少年団)
4年以下女子単	高田万智 (石ヶ瀬スポーツ少年団)	大串恋々奈 (NOCK)	河村珠莉奈 (NOCK)	河合星空 (TOYOKAWA Jr.B.C)

第38回愛知県小学生バドミントン大会 複の部

種目	優勝	準優勝	3位	4位
6年男子複	因藤将夢 三浦壮太 (はりーあつぷジュニア)	渡邊楓雅 田辺昂太郎 (大里東ジュニア)	西牟田剛宇 川合健介 (T-Jump Jr.)	澤木悠羽 田中颯真 (岡崎ジュニアB.C)
5年男子複	石川隼 池田純一朗 (はりーあつぷジュニア)	小立晃成 片山結太 (dragonfly)	尾形亮輔 平井賢志 (ウィスタリアジュニア)	松野凌大 清水彪梧 (羽っ子CLUB)
4年以下男子複	坂野開俐 石川剛 (はりーあつぷジュニア)	坂本羽琉 桑野駿 (SGUジュニアバドミントンクラブ)	花堂里空 松下遼祐 (はりーあつぷジュニア)	伊藤大悟 山本悠惺 (師勝ジュニア)
6年女子複	縣明日香 馬場こころ (はりーあつぷジュニア)	門川季 水野有梨 (長久手ジュニアバドミントン部)	中尾心晴 内山莉緒 (長久手ジュニアバドミントン部)	富田紗来良 浅田志歩 (くすの木スポーツ少年団)
5年女子複	熊谷南虹 山本樹実 (たんぽぽB.C)	宮崎結舞 櫻尾雫玖 (師勝ジュニア)	山本実生 佐藤彩乃 (石ヶ瀬スポーツ少年団)	遠藤ひかり 米田悠花 (SunGreen豊橋バドミントンクラブ)
4年以下女子複	本橋歩奈 濱見杏奈 (アドバンスジュニア)	山脇咲星 馬場心春 (はりーあつぷジュニア)	河合奏実 神藤想夏 (T-Jump Jr.)	安藤花恵 中村美結 (師勝ジュニア)



5年男子ダブルス優勝



4年以下男子ダブルス優勝



5年女子ダブルス優勝



4年以下女子ダブルス優勝



県シングルス6年男子



県シングルス6年女子



6年男子ダブルス優勝



6年女子ダブルス優勝

愛知県高等学校バドミントン大会(最終学年生徒の部活動成果発表大会)

8月に予定されていた全国高等学校総合体育大会の中止に伴い、4、5月の県予選および各地区予選も中止となった。やりきれない思いを抱える3年生のために、これまでの取り組みの成果を披露するための「代替大会」が7月から8月にかけて実施された。昨年の新人戦で県大会に出場した選手による「県大会」と、それ以外の選手を対象とした「各地区大会」に分けてそれぞれトーナメント戦が行われた。

一度は諦めた3年生が再び体育館に戻り、この大会に向けて懸命に練習した。保護者の観戦、声を出しての応援などが禁止されたが、高校最後の晴れ舞台に、ふたつの大会を合わせて700名を超える選手たちが参加し、それぞれの思いや気持ちを込めて、力いっぱい戦った。

県大会女子複 8月8日(土) 愛知産業大学

決勝は名経大市邨の中山・岩野組と岡崎城西の双子ペア山本鈴乃・琴乃組の対戦となった。1・2ゲーム目は一進一退の攻防であったが、市邨ペアが粘り強いレシーブからペースをつかみ優位に立ち2-1で勝利を収めた。中山は試合の後、パートナーをはじめ、支えてくれた人々への感謝の口にし、岩野は(JOCで3位になった)自分たちの実績から、勝って当たり前というプレッシャーがあり、内容はともかく勝ち切れたことが良かったと話した。



(左) 岩野真睦 (右) 中山うらら

県大会男子複 8月9日(日) 豊橋市総合体育館

ベスト4にすべて名経大市邨高校のペアが残った。決勝は3年生の志賀・河辺組と2年生の阿保・上田組の対戦となった。1ゲーム目は終始取って取られてのシーソーゲームとなり24-22で3年ペアが粘り勝った。ファイナルゲームに持ち込まれたが、河辺・志賀組が意地を見せ優勝した。志賀は1年生から最後まで県大会ダブルスの優勝を手にしたことへの安堵、河辺は選抜・総体がなくなった中でもこの大会が開催され、優勝できたことを喜んだ。



(左) 志賀伊吹 (右) 河辺颯真

県大会女子単 8月10日(月) 岡崎中央総合公園武道館

ベスト4には岡崎城西の2年生2名と名経大市邨の3年生2名が残り、学校と学年の威信をかけた戦いとなった。城西の2年生久湊が最後まで安定したプレーを続け、優勝を勝ち取った。全国総体をはじめ多くの大会が中止となったが、この経験を生かしていきたいと先に向けての思いを語った。



久湊菜々

県大会男子単 8月11日(火) 岡崎中央総合公園武道館

全体に競った試合が多く、誰が勝ち上がるか予測が難しかったが、名経大市邨が層の厚さを見せた。準々決勝以降ほとんどの試合が同校対決となり、お互い手の内を知り尽くしているだけになかなか差がつかずファイナルゲームまでもつれる試合が多かったが、やはり第1シードの太田選手がしっかりと勝ち切った。中高通して最後に優勝できた喜びを語り、その佇まいは顧問の先生の厳しい指導のもと、人としても大きく成長した証しでもあった。



太田光哉

高体連 大村悠介・上出美佳

愛知県大会

	女子複	男子複	女子単	男子単
優勝	中山・岩野(市邨)	志賀・河辺(市邨)	久湊(城西)	太田(市邨)
準優勝	山本鈴・山本琴(城西)	阿保・上田(市邨)	岩野(市邨)	志賀(市邨)
3位	成清・河辺(市邨) 久湊・石田(城西)	太田・安井(市邨) 永森・近藤(市邨)	中山(市邨) 梅田(城西)	河辺(市邨) 上田(市邨)

愛知県地区大会

	女子複	男子複	女子単	男子単
尾張	川原・諏訪部(杏和)	堀江・大山(誠信)		
名北	杉山・平澤(春日井西)	伊藤・津谷(市工芸)		
名南・知多	田口・青木(星城)	水野・森川(常滑)	服部(大府)	水野(常滑)
三河	因藤・石川(城西)	大川・青山(三河)		

テニス・バドミントン専門店

ラケット
ショップ

NONAKA

名古屋市千種区内山町3丁目28番2号
TEL <052> 741-3537

スポーツごころを世界に。

YONEX

愛知のホープ

う め だ り り こ

梅田莉々子(岡崎城西高校2年)



昨年11月に行われた愛知県高等学校バドミントン新人選手権大会個人対抗女子シングルスでは、準々決勝から決勝まで同校対決となり、決勝戦では持ち味のパワーのあるショットとゲームメイクの良さを活かし、同学年でチームメイト、そして長年のライバルでもある久湊菜々選手を競り合いの末ファイナルゲーム18本で下し、優勝しました。また東海選抜バドミントン選手権大会で準優勝し、全国選拔出場も決めていたのですが…。

家族の勧めで5才からバドミントンを始めました。小学生の時には全国大会で準優勝するなど、多くの実績を残しています。中学校はバドミントン部がない学校だったので、周りに同年代の選手がいない練習環境でしたが、黙々と努力を重ねてきました。

高校では学年トップの成績を維持し、何事にも我慢強くコツコツ努力しています。普段から真面目で落ち着いた性格。コートの中での厳しい場面でも慌てず、冷静に状況を判断し対応します。身近に多くのライバルがいる中、切磋琢磨しながら明るくひたむきに練習に取り組んでいます。その成果もあり、フィジカル面で大きく成長しました。

現在は一步目の動き出しを速くするなど、全体的なスピードを上げることが課題です。今後は全国大会で上位入賞し、ナショナルメンバー入りを目標に頑張ります。多くの大会が中止になり、大変な状況ではありますが、自分の目標を見失わず更に大きく成長していけるよう精進していきます。応援よろしくお願いします。

岡崎城西高校バドミントン部 顧問 藤井珠生

フットワーク

此の欄は、連載物のコーナーとして県内各チームの紹介やその他の記事を皆さんに続けてお届けするコーナーです。

今回は

春日井市たんぽぽB.C

を紹介します。

2名のコーチのもと、小学生13名が、それぞれの目標に向かって練習に励んでいます。卒団した部員が参加することも多く、とても活気のあるクラブです。

限られた時間内の練習で大切にしていることは「この練習は試合のどの場面で使えるのか」「どういう体の動きがより良いショットを生み出すのか」と、常に実戦を想定しながら練習をすることです。そのため、コーチと部員の質疑応答が絶えることはありません。正しいフォームを習得するためにコーチお手製の「骨格模型?!」が登場することもある…。低学年にも頭の中できちんと理解をさせ、それを体現する。そして上手くできなければ基本に戻る。これが日々の練習の大半を占めます。東海大会へ進出する選手もいることが、この練習の成果だと思っています。

今春、新体制で始めようとした矢先、練習場所が閉鎖されるという事態になってしまいました。しばらく自主トレの日々が続きましたが、オンラインでトレーニングをしてみることにしました。仲間の声が聞こえ、子供達の名前を呼ぶコーチの声が聞こえる。ついこの間まで当たり前だった風景が画面越しに復活しました。静かな部屋ながら楽しそうにトレーニングする子供達の姿を見て、練習再開の日を首を長くして待ったものです。体育館での練習が再開した時の、子供達の生き生きとした表情が忘れられません。「バドミントンが好き」ということを心と身体で現した活動再開初日でした。その初心を忘れずに「考え、実践する力」を身につけるクラブチームでありたいと思っています。

たんぽぽB.C 保護者代表 本多登美



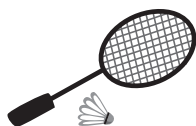
一宮バドミントン協会

◆一宮尾西オープン6月22日開催

種目	優勝	準優勝
1部	斎藤 忍(小牧) 西塚 里美	水野 葉子(岐阜) 長瀬 友加
2部	関山 陽子(蟹江) 永井 容子	土屋真紀子(大口) 斉木美津子
3部	前田 恵子(一宮) 藤谷佐知子	掛布 千波(江南) 服部理恵子
4部	鈴木智奈衣(一宮) 吉川みゆき	森 美里(一宮) 青井 恵子
シニア	西川 福美(岡崎) 井上 貴子(名古屋)	村上 啓子(小牧) 山崎 明美
種目	3位	
1部	岩田 恭子(一宮) 丹下 美樹	桑野 美和(津島) 田中 伸美
2部	川口 文恵(日進) 仙田 恵子	毛利 恵美(清須) 近藤 郁子
3部	大野 幸枝(稲沢) 佐竹 映子	安藤 美香(一宮) 加藤 洋子
4部	大橋 真由(一宮) 榊 肇代	伊藤智恵美(一宮) 横山絵梨子
シニア	後藤 郁代(三重) 森 多恵子	田中 京子(岡崎) 戸田 眞澄(一宮)

審判連載

「不測の事態への対処」



水野 慶介

主審業務を行っている、不測の事態に遭遇する事があります。慌てることなく冷静に対処するために、様々な状況を常に想定しておくことが大切です。

以前、会場で雨漏りが起こった際のことを書きましたが、その他に経験した例として、シャトルが羽とコックに完全に分離してしまった事がありました。打った瞬間に、2方向に別れて飛んでいき、驚いたことをよく覚えています。滅多にあることではありませんが、誰にでも起こりうる事態だと思います。対処としては「レット」とします。

競技規則にも、明確に規定されているので、確認しておいてください。

西三河のバドミントン専門店

モリボール

豊田市山之手3丁目100番地
☎ <0565> 29-0055

求ム!

公式サイト 管理・運営ボランティア

「公式サイト管理・運営ってどんな仕事?」「Webシステムを勉強したい人」や「興味がある。面白そう…」って思った、あなた!是非、お手伝いだけませんか?「あの人が適任!」と推薦いただくのも大歓迎です。

作業内容

●公式サイト管理・運営のお手伝い
HTML言語*を使って公式サイトの記事の掲載、加筆・修正・削除等の作業です。

※Hyper Text Markup Language: Webを作成する際に使用するIT言語

要件

以下の二つの要件を満たす方なら、どなたでも
①愛知県バドミントン協会の登録会員であること。
大学生あるいは社会人の方で出来るだけ長期間(最低でも1年超)ご協力いただける方
②HTML言語を扱える方、もしくは今後学習していく意欲のある方で、Excel、Wordを日常的に使用している方

人数

1~2名

問い合わせ

●下記電話番号か、公式サイトのお問い合わせ画面から広報委員会宛にメールをお願いします。
●所属、氏名、連絡先(電話番号又はメールアドレス)をご連絡ください。

編集後記

あらゆる大会が中止や延期となる中、各団体では「今、何が出来るのか」知恵を出し合い、様々な形での大会開催を模索しています。本号はそのような活動にフォーカスしました。

さて、巻頭記事のLIVE配信はご覧になりましたか?活力溢れる選手の映像は、バドミントンに関わる全ての人に元気を届けてくれますね。

広報委員 鈴木勝男

連絡 投稿

〒452-0008 清須市西枇杷島町地領1-9-9

広報委員長 岩田 崇

TEL (052) 501-2602

愛知県バドミントン協会のホームページアドレス
<http://www.badminton-aichi.com/>
Eメールアドレス info@badminton-aichi.com

勝つための本物

GOSEN®

www.gosen.jp

株式会社ゴーセン 大阪本社/TEL.06-7175-7116 FAX.06-6201-0741